



新撰虎玖波集

秋下冬賀
每湯總上

~ 5
1130
2



利 1/30
卷 2



新撰菟玖波集卷第五

好連歌下

東海と云く我日來わんよと云ふ

宗和法師

こころ引けり乃こよみ此約世より

ふるき開屋入りこゆる年一

宗大納言雅親

此月此は海すまの心流るこやこ人

誰波江くたのこれらもこ雲

御製

河海はたはなよふかたのよかひにたふし
又昭十七八月一日に由惠のまき
の名号をうこよまきと傳へ連続の
こまみきうし満れかちりも及くわさ

三品親王

と志が火うすまに月れりまき
あしぬ船海れかえれと歌まき

宗勲法師

入るいとほるも厚かうこふと
かふはたこらみひとすみはし

能阿法師

たのひあしれあはくさ月
たふつま乃志いに水ひくたら

法師行助

たふはあはあつき厚あし縁ありん
はあまきいよのあうはあらうこふまき

小野業繁

月すこのこはり〜海のみり
さ〜ちやんを〜海とら〜

指大納言実澄

い〜おれ様〜のた〜ん夜を〜月
前毎白を情遊〜百病乃は歌
お〜志は〜た〜の〜は〜と
さ〜おは〜ひ〜と〜厚れ〜お〜か〜け〜
あ〜ま〜る〜た〜り〜と〜じ〜や〜た〜ら〜ん

よ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

月やとれを乃〜志の〜と〜お〜け〜
常徳院院贈大政大臣左大臣がま〜百韻連歌お

後一位家子

い〜ら〜ん〜月〜れ〜ひ〜ら〜れ〜あ〜と〜夜〜
し〜〜れ〜と〜い〜か〜わ〜と〜ま〜え〜

恩 悲 櫻 法師

ふ〜る〜里〜れ〜東〜は〜ま〜の〜月〜ひ〜と〜る〜と〜社〜
物〜お〜り〜お〜身〜れ〜あ〜乃〜〜た〜ら〜

厚のい苗の所のあり〜
多相の丹ふき〜
とほの所のを〜ん〜
く〜と〜山〜の〜お〜身〜月〜

權大僧部心致

物る所とはとらむきり月をほくくえ
文明十四年五月廿五日惠光百約
此きんりり

法由ち侍るあより白ふなちをふ

前大納言教秀

たよりんれねを此月ふまあけ
すみこひゆるかられりの状

後花園院御製

りつにさすひかりあはに存入る

此の姿をほくよ乃を殊とん

三品親五五元胤

大山此月より不つる約つ極

祢さあぐあはあまゝるす急

權僧正日慈

り月も^りころひりさや山乃お

たるけきみち乃約果さるや

藤原よりいひ

あけぬまふふ大元めくはれはつもの月
野わきえらつておのゝ女はれはつもの月

智道法師

山りこのじよきつらまはれはつもの月
たかーわりまはれはつもの月

藤原正種

しほまはれはつもの月
このまはれはつもの月

藤原宗豊

えとーはれはつもの月
よはれはつもの月

法眼專順

うかいせはれはつもの月
なとーはつもの月

宗祐法師

月かやえーはつもの月
まはれはつもの月

関白右大臣

あさくさの花もあつゝにんごのよ
ひもよこちいもあつゝにんご

法眼者頌

志乃くめ徳たふ乃あさくさのあひそ
たあつゝに徳のあつゝあつゝあ

好龍法師

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝあ
日とひいとあつゝあつゝあつゝあ

好龍法師

朝赤く乃花れあつゝあつゝあつゝあ
子白乃連歌ふ

いとあつゝあつゝあつゝあつゝあ

宗長法師

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝあ
あつゝあつゝあつゝあつゝあ

多くはあつゝあつゝあ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝあ
あつゝあつゝあつゝあつゝあ

宗祇法師

野わきせし庭の月うけ敷はこし
を詠うあるを云井れら乃音律

前太大臣

いあそひ海つき志も梅のあはれ
鴨ふ川あはれみつこさるま

覚嵐法師五

うらほてし小田井稲くきおはく
ふ川にすみうゑふ志けやま

藤原長泰

あそをまきはつたれすを因とらす

秋は身をきたるこころを

宗祇法師

をし縁とるをいむこの草の宿
又うちそよみ梅れをうらむ

玄清法師

あそれふも田乃ひつちちなりあ
はれの志もつるを女々西勢

宗祇法師

とすれおる鳥をよめす虫はたふく
茶茶乃中のみちるみちる月

宗祇法師

斤ろろ魚侍をひく夜ふのむえ
およりのちろきさく砂乃月

肖楠法師

杖風乃ねよははるこ急あけ
こ急なもま萩のす急このお急

前大納言雅親

小鳥とらろくかへはらり
月まちろろくろくや旅の野

御製

鴨乃川澤急のみつ乃如鳥
あされえ如き色急のゆかれ
とらこちろく

しえ水をたもよかへはきいあ
名も志ぬ小草花はく海り
とらあ急白子

權大僧都心敬

あふみからねの杖乃さばはこら

法眼智順

夕は暮ちりふる月小鴨をきこ

うらばらうねお乃原にまこめ

能阿法師

うらふく月一志きれたたのこ急

志がいのせい母しりよ東の秋

權大僧都心敬

まらばよふよこらへばこ日ひらね

ひとら乃こあきおる麻子月と見え

智道法師

と家のまらあいにしちまきいねもこ

兼は子まかかぬ河村登乃らち

宗源法師

あま^はくあもあさうらふら地あま

ふちくのやばき月二人の縁

法平行助

り後や木葉たし後とくうら
たし後もあはを梅のしん

法眼書順

すみとあはれはよくもあつすくふ家
月くうたあひひるまたらけき

法橋益我

あはれはよくもあつすくふ家
かり後ひ後あつすくふ家

宗祇法師

もあはれはよくもあつすくふ家
たよりくちし月あつすくふ家

藤原利總

あはれはよくもあつすくふ家
あはれはよくもあつすくふ家

前大納言雅親

草じつさいむきやと乃林うあ
たあふとあつすくふ家

前大納言實

あはれなる人あはれなる人
あはれなる人あはれなる人

愚誓法師

里のあはれなる人あはれなる人
秋代乃月もかくやとてあはれ

法眼專順

あまのあはれなる人あはれなる人
あまのあはれなる人あはれなる人

法橋通載

秋の夜乃あはれなる人あはれなる人

あはれなる人あはれなる人

多くは政弘のあはれ

あはれなる人あはれなる人

あはれなる人あはれなる人

智道法師

あはれなる人あはれなる人

あはれなる人あはれなる人

前大位

物もせせましく梅の香もあわねわん
なごころの月をこころも後のい

御製

あまの秋をわいの老はものたまを
母とのこころ老はまのあはれあり

後宗光院御製

秋の祢さあつり物かたにのひを
あたらひをこころたまのあはれあり

法眼泰湛

いづのこころあつても秋の程かた
いたす木のあはれもたまのこころ

藤原基教御製

いづのあはれもあはれまのこころかた
いづのあはれもあはれまのこころかた

乃元法師

なごのしむえの香も心もたまのあはれ
あつひつらりとあはれまのあはれ

法眼智順

解くろうあつえ老後引しと東
河の地くくしははもひんされ

智道法師

杖とていこら乃は海とあし風
世あつと人のこいみとあせん

一覺法師

うまいものこひいこら海と杖のえ
あつあつあつあつあつあつあつ

法眼泰平

ふはやく世の法
淨眼を
くまはやくをのあかん

宗彌法師

いあつあつあつあつあつあつあつ
いこらうらうら世れ杖はあひあつ

權大僧都心敬

じいあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

智道法師

昔の無事にしつゝあつたから店ありて
みよきこひぬくこゝろたはる母よ

平政札

くじあつたかゝ杖のしあつて

あつたのちあつたあつてはあつた

背指法解

心算かゝあつたあつたあつたあつた
杖とあつたあつたあつたあつた

宗般法解

大山本素こつてあつたあつたあつた
うらま乃たあつたあつたあつた

宗初法解

いあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

權中納言通世

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

法指兼載

行島はあまをとおとらねん杖をけん
志らねんきりみひはねん

藤原為續

夕日さぐあはれ肉ののみちをさひ
月のうらとあぬか

入道親玉道永

い海やまの杖のみちを袖をきて
身をほくすまを志ること

藤原雅俊

うほちほもあしきもなちのあまに

文明十四年六月源氏物語の三巻と書ひし
り海とたつるあまのたき 連歌小

御製

あまのちをのみにあつらへん風吹く
は葉としよものほひにたを言ふ
風のあつらへおち志井れ
在明の身はあつらへん
よこい人あつ

ふたにわらひのちのまみちも秋風
秋風さひりこけおこし海を

多良持世朝臣

お海は雲もぬいそを志のうえ
月より雨もあそむのち

源元教

このちもほりくはらう秋は
く海の日もふく海はあそむ

道宣法師

ゆさたちほみのりあめのみあそ

永享元年仙洞より侍連歌
たみりくすきい麻はり

後一位隆盛

音はきき小野乃山のせあきいけ
まもつた地りくほそひれあそ

法眼専順

男麻たかくもあそりれおこやあそ
ふ枝れあみちのあそようら

まゝあられまのいものいふ好くわ
う 縁くさたぬ屋よりあまふ

河内信託卿

あられゆる秋の木くはれあふひの
みまにはひのいふあふ

前園白道清

秋は子とき時ぬれあふくく日あふ
康乃音とひくあふはひのひ

前大僧正義運

秋は来よあはのいねやあふ

田代よのさかづのあふ

前大僧正道興

秋さじきひ縁うては来乃むあられ
ちのつとくくあふはあふあふ

前大僧正實

好乃くみの身かしくれえ
あふあふのあふあふ

禅堂法師

志くねりあふと成ちれ梅の月
たよふら梅をいこゝそんま

法中行助

めくつたぬおちとちりなれじ志くま
い海はくしと津くま名言

紀光信

たのたふこ梅れ志くれとならぬ
こい梅いそあ志お志んれも

智道法師

長月のほぬ乃しや志くぬん
こひたつ袖くたつるし風

祝部友弘

かりたふく何うはは月おあ
おはかあこそ月ささる

法眼専順

おろまれびくれやこ梅少け
えあいたしはあめたる志

前九大臣

志も備ふ風は身も兼ふ此は忠乃心
くらかき乃じりーとるふ後序

後一位雅行

河つつまの遊を志もりたる心
心よりそひまの月夜か
志と兼ふ心や
心と兼ふ心や
心と兼ふ心や

智直法師

河つつまの遊を志もりたる心
心よりそひまの月夜か
志と兼ふ心や
心と兼ふ心や
心と兼ふ心や

権大納言実隆

河つつまの遊を志もりたる心
心よりそひまの月夜か
志と兼ふ心や
心と兼ふ心や
心と兼ふ心や

河つつまの遊を志もりたる心

志も備ふ風は身も兼ふ此は忠乃心

ちんじん

松の庭もほろもきそら秋をま

前大納言秀吉

志も備ふ風は身も兼ふ此は忠乃心

おの松のひー夕らまのそ

多々良政弘約信

志も備ふ風は身も兼ふ此は忠乃心

たの松をちりりとみせぬ約信

玄室法師

月をさくさくしつまへ河を流るる女よ
あゝ志んねのあゝはらうらうら

平孝法師

秋ふね月のかや河を流るる
ひららそひかり月よあけ

三ふ親王

あはさうらふ山やあをむむか
くれわらあはさうらはらうら

権大僧都心敬

あはさうらきふねの秋を流るる
あはさうらあはさうらあはさ

宗長法師

あはさうらあはさうらあはさ
あはさうらあはさうらあはさ

智遍法師

あはさうらあはさうらあはさ
あはさうらあはさうらあはさ

壽官法師

おーめたるうまもあいらる杖は言
世ー此言か、いふおろーた草

式部の貞常親王

月此心海の色野法杖ふるをたしら
た、物家裏を法也乃何と地

宗大僧正義我運

肉ふーいれろいもー杖ふる
こくふーいもー杖れたちぬ

宗張法師

うまもあいらる杖は言

新撰菟玖波集卷第六

冬連歌

なうらじりふ家山はたたひ

前左大臣

秋はゆきまの河ははるあまの冬は

めらりあふまの村のちり

御製

神世月をまきし志くはらん

このたうの地り言をたきし

三品親王

ひらきや月こころもあはらん

たうらじりふまのちり

源政歸朝臣

あはれあはれ時雨のあまの月

かきあはれすひえはら

源政基

水くさきよこの月やあはらん

かきまらんこころのあはらん

法橋兼載

ねんぶをききしもの心はきき
あふ人いふなりと云

宗長法師

それゆすの心はきき
心あふ人いふなりと云

宗勉法師

しらすくれの心をきき
心あふ人いふなりと云

宗祇法師

しらすくれの心をきき
心あふ人いふなりと云

権大僧都敬心

めくつておたか
心あふ人いふなりと云

友原長清

心あふ人いふなりと云
心あふ人いふなりと云

前大僧正増運

けいみきい座とすの義法地とて
あつたをくらうたよき

法眼寺頂

おとほのちやふはまの志くらと
なよまあまもあつたよき
法眼寺のたちえううよまこえ
ふまいもあつたやたひひたえ

宗行法師

ちりそりやうよまひらうとあ

あまのめらにたを意しけき

あの中約玄縁光

栖河いりあまよらこあ

法由まこやぬ老の杖あき

下孝法師

袖やいあまよまのめあせ

うまよこあまよまあはあ

よまの人あ

相坂や家の古なるよのあ
武阿の邦高親王
吉羽のしるあつたよき
まけた
ゆまのあまよ
左徳院
大徳院
行屋の楯の祐事すのあ
とねあまよ
まよ
さあ
大僧正のあ
大僧正のあ
大僧正のあ

理... 智... 記

本... 記

... 此... 乃... 記

源政言

... 乃... 記

神益政

... 乃... 記

宗紙法師

... 乃... 記

文... 乃... 記

神紙伯忠家

... 乃... 記

御製

... 乃... 記

前大納言教秀

うねらう家おれ志すさあらうにまきく
ふのじもあふや^老学のりしと東

藤原あひ

あこまきこらうのしただちのまきあへ
あふふこまきあひまのりしと東

権律師隆胤

はしあふふあわらうあひたひしと東
あふふあひまのりしと東

法指兼哉

たふはふふまの朝志もろむちあひ
な火をこまきあひたふちと東

法皇行助

鳥北音と八度乃志もれとゆらあひ
あふ寺にれのかくこく人もたふ

道真法師

うのやあひまのあひとあひら
あふらうらうにふくまふらあひ

源頼朝

河ゆきのよみかたはなほのむねは
河ゆきのよみかたはなほのむねは

宗徳法師

一またたけはくらのあを
少またたけはくらのあを

勾当内侍

水ちのき松はあきく
うこからくはな火く

前左大臣

おれはひー東やあけ
茶ははくくはなぬ

十編院入道前内大臣

霜はひあはれち
まよはれ雨の竹

宗任法師

ころまふ河は
ははのまふ河は

源政弼約旨

つたふちあはれし松原の勢あまえ
こころしきよしにたてた店

智道法師

志おのふゆわうはあまはれち地り
鳥おししはくちを流るる

能阿法師

あしおくらひたゆりたるあし
本氣たのち乃くせえはある

あまのこころしきよしにたてた店

冬こそとたのひし月ふはのあ

こまてあまの世を心へはるあ

十輪院入道前内大臣

あまのこころしきよしにたてた店
あまのこころしきよしにたてた店

後一任家子

あまのこころしきよしにたてた店
あまのこころしきよしにたてた店

源重經朝臣

おのりつる月乃ひるまのほ母とて
河一乃をとてまににまけい

權大僧都秀順

くろよなこ母はあもまのつえ
ね秋こつたほのほひり

多良政弘朝臣

ゆきまのたふれおつり月たて
卯酉乃ふのふ乃まふちる

宗初法師

おのまはれお多ほつら月あて
よこまのつらつらつとれ梅のえ

能阿法師

おのよのな乃月つささふけん
ふれおもたつたあねおつら

菅原正教朝臣

あつとあおれ月のほ母とて
さつせにあつとあつとけん

權大納言實隆

ひつらうら けとねれさうせき
ふみのうら かるをさうらうけ

法眼寺願

あかいとよひまのふんはるまーおあ
おもひけよるらやうらぬのあか

法橋寺願

うまし野よしとらまのたうせき
葉のはみちねはくしとら

源友興

ちうきうしきばらこころあつん
山風も音をぬらねいあまはり

よのこ人あつん

木葉あつん魚のうまをさうら
あめていひいこのなま

後成息入道前関白家

ひつらうら けとねれさうせき
ふみのうら かるをさうらうけ

法眼專順

たもち花ふはほきは雲をうもりしひ
山里いともあがりつるこをほひのり

源持知

月よはゆくれおよあけがめ
この村をけり海をたどる花の色

権大僧都心敬

蒼々野の月とまもちとを名をねん
のりらちりあしみの日さけを深にん

権大僧都日る

葉は梅のゆき乃はゆらやうれた
わされよまきれぬかの月れ杖

藤原為續

ゆかし雲をいむふと云を
及たてはまよふ山のけぬ

法眼專順

いさこれうたなるみさしひを
たちふあををありふあの日

山内信隆

ふみつのおおや一すもたえやん
ちまたら一事のあつものいら

前左大臣實

あつておのむきぬ者のあつたれ
たのよむひあつてあつてし

二品親王

さおのつたつてふんぬむきぬ
あつておのむきぬあつたれあ

玄隆法師

あつてあつたあつてひつとあつた
あつてあつたあつたあつた

贈後三位教弘

あつてあつたあつたあつたあ
あつてあつたあつたあつた

宗彌法師

あつてあつたあつたあつたあ
あつてあつたあつたあつた

法眼專順

はひのいふあゝあはれと約の者

うたふはるるくはれあま

宗御法師

いかにやうくひんひんみはれ者

たふはるるあまはれあま

智道法師

雲あまの片乃下ひんひん

くどるるあまはれあま

平長恒

冬こもはをいかられのみ草乃者

屋川わらはれあまはれあま

前大納言雅親

いとれかこいあまはれあま

あまはれあまはれあまはれあま

申京師富船伝

おこいあまはれあまはれあま

あまはれあまはれあまはれあま

関白右大臣

いせのよきあをよしのあ
月ふかきほくはれりらん

青栢は解

松乃とれ音か(は)は名を乃あ
人とも志づいり名をこは

多々良政弘和信

たまひはあかのひもまみは
唐にしろくろはりの風

智徳は解

は母か、日はあをれ小鳥と人をま
入月くすのたろめたる

藤原文躬

あまのあはれあ〜るあ〜るあを
あ〜と袖のあはれ〜たみち

太政大臣

うけり〜とけり〜夕日乃あはれ
音あ乃いれはあをちあ

大義瑞經後

はむげふに冬のおくなる時あはれ
智少らばはるるのねり

舞阿法師

みしらあへ入れば山は月あはれ
そこの庭はるるをえいころあはれ

關白右大臣

よのあはれはるるをえいころあはれ

明應三年十月一日の事連歌此中

庭りみりいさむしきあはれはるる

持大光の安隆

月よりふらなひれりいころあはれ
春とぬき地乃あはれはるる

平貞宗法師

本す急乃をいれ麻やはきけき
二つひあはれりいころあはれはるる

法眼專順

たのころりいころあはれはるる

此を人の水乃たちのこち乃るを

権大僧部心敬

うりえたき雪乃これあやふけぬん
人よりいほさぬらあだよりきり

多く良政弘和臣

あつられ秘するほもあき夜はく
うらよあとおりのうし四

宗御法師

あつらわれ秘するほもあき夜はく

あつらわれあまき葉たまたく文徳言

権大僧部心敬

すまころり市れりゆるはめの心
松よとれあまのこあやうくにあき

は下助

あつらわれあまき葉たまたく文徳言
あつらわれあまき葉たまたく文徳言

持中納公意親

あつらわれあまき葉たまたく文徳言

新撰虎沢波集巻第七

賀連歌

苑はく松も心のえんはあふふふ母

式部は邦高親五

いとのおもひよりすゑきるゝあはれま
うちうは世をなもみくらねたう
とらふとをこまふ刃結らゝふ

前左大臣女

ふふとちよせれりすゑたはるは

多く良政私約也

悪りよにけくぬ開はくは海いんて
を孤たし備わもくく人のいあ

法服專順

國屋はくたのういんてはらうん
しうしにめくはいんてくは
はくしうらよ車ものうすうん
いんてはらういんてはらう

式部弼貞常親五

二枝はせわらういんてはらうん
かみんはくしうのあひんてはらう

御製

のせみえくしうはくしうはらう
はくしうはくしうはらう

後女惠寺入道宗園玄誓

まふいんてはらういんてはらう
いんてはらういんてはらう

法指書載

君り代にさすけー 妻の勢とたいまの
子むらあ終とそしとぬたのの

能阿法師

まことのもろすまろく 後れまの
なれまのゆと何とせあそ

藤原雅後約后

君りよふおまろくもあははる
い〜いぬあそはる

平貞宗約后

みちくたなまはたふの
ひ〜いぬあそ

紀則宗

あひのちる時：むんじ
たひげよ〜

宗初法師

みちあはとあふあつら
こ〜んしとれう 聖志の
はあをた君りあろこの

あまきく久しきりめの尾はなま

源盛瑞

君の代にきれ志したるす志は

長傷連歌

くありたりははるしはるしき

内大臣

あまきくをありきをかきく夕まはる

文の十八年三月あま百約まのり

草をあらし遊もくあふみくまぬ

御製

あまきく野やふれまよしと油ぬま

永享五年四月仙内よる約は連歌

まぬねのひや梅はたはるしとゆる

後小松院御製

くあまきくあまきくあまきく

けしはる神母あまきくあまきく

あまきくあまきく

わらまのうらたあそおちけり

後智恩院 道前園 敬信

ちひさしきなをくれさたふら老れよ

わらまなごあそこのえん子 厚きん

権大僧都 日る

ふたむかひのあきさう 芳乃らま

又よこしひの言をいりあき

権大僧都 心敬

ちほろちりにんけせんらふかきん

さうあけまやあふく 梅えあに

宗澄法師

ふらんの花らさたけまのせう

わらまの梅をいりあき

源持知

ちきりうらたあそふらまはとん

ほあきいりくれすたちほのせ

宗般法師

あにあきうらたあそふらまはとん

玄清法師

なすれよとて神をみもたふせし
ちまらんとせむとあふとてか

権大僧都心教

あにあふりす果このひとあふ
まよまき存れとてあはありま
ぬまきぬはあふあき世ふ何
たのひとたふれ志たふわらふ

法眼紹永

うすりこころむるもあか

わら終るこころたふあふあひ

権大僧都心教

あまこ人送る野色乃なるはま
こえあふらやうとあふら
人のわさすまは出るみひあ
まこのはなも老いたのまん

宗任法師

たにたあふひとらふたふすこひ

しむるはつたての海ありはは

宗祇法師

あつたての海ありはは

あつたての海ありはは

宗祇法師

あつたての海ありはは

あつたての海ありはは

贈後二位教弘

あつたての海ありはは

あつたての海ありはは

宗祇法師

あつたての海ありはは

あつたての海ありはは

法眼泰湛

あつたての海ありはは

あつたての海ありはは

宗祇法師

あつたての海ありはは

戀わひぬらのちよなふらうん見

宗長法師

わらわしあふ^とおるはあさいい

あふれあふる^んたの^んは

宗長法師

とまこみお野らつおるあのか

あふ^んあふ^んあふ^んあふ^ん

法眼專順

ふらふらふらふらふらふらふら

志り一層くらふまらせらけ

多々良政弘約信

わらわぬあふれあふ^んあふ^ん

みちあふ^んあふ^んあふ^ん

法眼專順

ふらふらふらふらふらふら

たふらふらふらふらふら

智道法師

ふらふらふらふらふらふら

後乃世とたのひはあはれなるよらん
いほとのとたはらうはらういほか

新撰花吹波集巻第八

恋連歌上

い乃るちまらうの神よこへま

三品親王

あめつちとわつらふよらねひはあ
たのけいあひいよて地と一統

権大僧都心敬

くふとありせとあるもらねひまじ
みう乃連歌下

心のあるみちをいひこころあま

宗祇法師

いせをまよひし^まいぬまをぬかえ
わんちうあいらうをれうあ統

法下助

うもしたくみしとねひれあめえ
えーもろひいたるふにうまえん

法眼禅豫

い海いおもいろめはる日まし

わかいのちいそとたかくやせうれは

後一位教忠

めい海いそらうあわら梅のせよ
はられあるとはくまひいらは

御製

あちあひしや志のりあひんを
夕つ好よもき一葉のよまえ

後花園院御製

たのよなう志のよ草れ名もり

ころまへし〜はれからあらん

指僧正日蓮

志のよき人のたよりもはなれぬ
かゝる事とさういかにいふ

指大僧都心敬

たのむにわらなぬるをてあはれ
あつこくあつこくすまふとて

宗初法師

月とらしむにわらなぬるをてあはれ

あやめとアム〜ぬれにやま

智徳法師

月まの〜いんたう〜はあやめ

定徳二年後八月廿九日
男とらしむにわらなぬるをてあはれ
免水儀基總

いひぢぬあひいよ〜あはれ

指大僧正日蓮

いほ〜ともいふに
うほ〜はれを志のあつこく
あつこくあつこくあつこく

式部口邦高親五

意一はく志のぬふくひたるなるん
くちほきふとや口絶をん法

法橋遍載

何ら心もし〜〜おのすも心
あか〜の〜ねたむねあは

法眼尊順

志のあは〜〜心もたむねのあは
ん〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜

源持知

やあ〜の〜人〜の〜心〜の〜し
た〜の〜あ〜の〜た〜の〜世〜の〜あ〜

源持知

あ〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜
あ〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜

持大納公実隆

み〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜
あ〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜

白苗也符

ふもつちのりていしはくもいしん
たかひかかかかかかかかかか

おの大僧道圓

いしんていしんていしんていしん
いしんていしんていしんていしん

宗長法師

いしんていしんていしんていしん
いしんていしんていしんていしん

持大僧部心致

おのいしんていしんていしんていしん
いしんていしんていしんていしん

法下法師

いしんていしんていしんていしん
いしんていしんていしんていしん

宗海法師

いしんていしんていしんていしん
いしんていしんていしんていしん

宗物法師

たのひのひはきよまの人あはねあま

くまひのひはきよまの人あはねあま

多くは政弘法師

あまのひはきよまの人あはねあま

あまのひはきよまの人あはねあま

宗般法師

たのひのひはきよまの人あはねあま

あまのひはきよまの人あはねあま

法眼專頂

あまのひはきよまの人あはねあま

あまのひはきよまの人あはねあま

玄澄法師

あまのひはきよまの人あはねあま

あまのひはきよまの人あはねあま

權大僧都心教

あまのひはきよまの人あはねあま

あまのひはきよまの人あはねあま

多く良政は給

たれめし思ひつらにもぬのくれ

ひららあつじのまをけひらた

後一位皇子

たれめしもやうきぬ花の夕つ遊り

人さひらまららんものそこれゆへ

後三條入道兼大后

わまをらんもおもひたふあま

あつめをれあつじのまあめあま

後成徳寺入道前關白兼

たふらやうきこれ戸ひら

らうあつじのまあめあま

三品親王

あつじのまあめあま

あつじのまあめあま

前關白 子孫

あつじのまあめあま

あつじのまあめあま

おとすく〜後〜月〜き〜

宗御法師

梅やけぬらつまへんれま〜
たらひとあ〜ぬお〜い祿〜

藤原雅後後の臣

〜たのめ〜川〜敷〜けり袖〜
あき〜う〜終祿人乃り〜

た〜り〜梅〜

は〜あ〜や〜ぬ〜け〜り〜ま〜た〜お〜

〜の〜祿の〜年ハ〜三〜も〜さ〜め〜

権大僧都心致

〜ち〜あ〜い〜の〜め〜一〜年〜
〜あ〜や〜ん〜お〜る〜よ〜さ〜

太政大臣

〜海〜う〜結〜成〜れ〜と〜い〜め〜あ〜あ〜ら〜
〜海〜よ〜り〜き〜い〜あ〜ら〜い〜あ〜れ〜

法眼素徳

たの〜じ〜あ〜ら〜う〜れ〜う〜ら〜に〜海〜

人にてよき事ありしにまゝなり

大禪法師

我の心もちかたしむるに如く

子白蓮花に申ふよき事ありしにまゝなり

おんてい

青柏法師

人の心もちかたしむるに如く

子白蓮花に申ふよき事ありしにまゝなり

常信法師

祢ねをたはしむるに如く

月を照らすよき事ありしにまゝなり

前光大臣

ふくむるに如く

たよりあるに如く

持大僧都日白

おんてい

身をたはしむるに如く

宗長法師

祢ねをたはしむるに如く

常徳院贈大政大臣

ういよのあつ〜人をまたぬきまへ
志のあつちのあつたるはり〜

大義の経義

あつ〜あつ〜い〜た〜た〜た
こあ〜い〜は〜あ〜あ〜あ〜あ

た〜い〜い〜た〜あ〜い〜あ〜あ
ち〜あ〜い〜た〜い〜い〜あ〜あ

内大臣

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

ひ〜ら〜連〜新〜法〜律〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

い〜い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

た〜い〜い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

宗伸は師

い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

権僧正祐基

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

思^ひや^しぬ人^のい^はれ

多く良政^はの^はじ

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

象^の儀^を重^{んず}治

たもつたはたなほまゝとわい乃^りん

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

志^す別^路

御^の制^を

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

よ^うん^の人^を志^す

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

権^大僧^正祐^基心^敬

あつたはたなほまゝとわい乃^りん

まゝいひおねうゝるふらうあま

平章棟

備きふらうごらぬらちをらねみよ

う徳一きふさ(袖)ぬまきう

素純法師

うちとくふらうあまあや一ははらう

いひぬきひらへたうはらう

藤原正家

あれあふまをれ中一のまらね

あのみみえ一おもうけいあ

持律師基宗

那くまのしほあなうふとつあ

おのひたうのうれこらう

宗長法師

はまいたうこまも一こらうあま

いひぬこらあをこらうな

後二位義敏

あ^まあふされらうはらう

あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

宗祇法師

わが身はー何んはまじふあはれいー
あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

宗祇法師

よの身はー何んはまじふあはれいー
あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

法橋遍載

わが身はー何んはまじふあはれいー
あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

藤原正純

あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー
あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

多良政公

あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー
あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

後一信房

あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー
あはれいーあはれいーあはれいーあはれいー

おきこし袖しひじあらあけ

神祇御書

うほは厚わらわらむ比し神祇
あしつるあそいんをうかたる

源政言

まふまらしあまらんわらはしん
あははまあまふあまのあま

権大僧部心教

あまらまらしつるあまのこし

ひこあたり^座たらまられし

のあまあまらんあまのこし

たのあまあまらあまのこし

いのあまあまらあまのこし

あまのあまらあまのこし

道空法師

よいあまのあまらあまのこし

ひげのあまらあまのこし

権大僧部日る

月とていふてをれをちかひ

三品親王

ウツキに袖を巻た志るは
袖を月とていふて

御製

花のうらみはひらひらと
人よまよひは持ていふて
かゝるはかゝるはかゝるは
さかたかたかたかたかた

入道右大臣

身も何まはし一本とのちかひ
かゝるはかゝるはかゝるは

法橋通教

ひらひらしは袖を巻た志るは
かゝるはかゝるはかゝるは

法眼專演

乃ちれれれれれれれれれれ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink and is arranged in several lines across the page. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect. The text appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific note. The text is written in a dark ink and is arranged in a single line across the page. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect.



